

# 事務事業評価シート

(H.30)No.	5155	(H.29)No.	5155
-----------	------	-----------	------

事務事業名	こども支援センター費		
担当部局名	担当室名	室長名	
福祉子ども部	健康・子育て支援室	山崎 美穂	

会計区分	事業コード	192501
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款 民生費	こども支援センター費	
項 児童福祉費	(小事業名)	
目 児童福祉総務費	こども支援センター費	

## 1. 事務事業の位置付け

総合計画	政 策	1	支え合い健康でいきいきと暮らせるまち
	基本施策	3	地域福祉の充実
	施 策	3	子ども・子育て支援
重点プロジェクト			

## 2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
子育て支援の拠点施設として、親子が出会いを通して交流しあえる場、子ども同士が育ちあえる場、市民の子育て参加の場を提供し、子育て中の親への支援を図る。
事業内容
名張市こども支援センターかがやきの運営管理 事業内容等については運営委員会において協議し、子育て支援に関する各種相談事業や研修会を開催するとともに、親子が交流できる場を提供している。 ○主な事業 ・広場事業 ・子育て講座、講演会の開催 ・相談事業 ・一時預かり事業調整 ・子育てに関わる情報発信等 ・子育てサークル等の育成支援活動

## 3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.29年度(事業量・取組実績)	H.30年度(事業量・取組計画)	H.31年度(事業計画)	H.32年度(事業計画)	H.33年度(事業計画)
主な事業の実績・計画	名張市こども支援センターかがやきの運営管理 ・かがやきフェスタの開催予定 ・子育て講座や講演会23回 ・子育てや子育て支援に関する相談1948件 ・なばり子育て支援員研修(子育てボランティア養成講座)6日間・育成のための講座講演会15回・サークルの育成(総会・連絡協議会8回実施) ・地域の広場の出前(毎月1回16広場)と交流会開催2回 ・世代間交流事業の実施(中高生と赤ちゃんのふれあい体験(台風のため未実施)・高齢者とのふれあい実施)9回	名張市こども支援センターかがやきの運営管理	名張市こども支援センターかがやきの運営管理	名張市こども支援センターかがやきの運営管理	名張市こども支援センターかがやきの運営管理

	H.29年度(決算見込)		H.30年度(作成時予算額)		H.31年度(計画予算)	H.32年度(計画予算)	H.33年度(計画予算)
	H.28繰越分	H.29現年分	H.29繰越分	H.30現年分			
①直接事業費		4,614千円		5,826千円	5,826千円	5,826千円	5,826千円
内訳(千円)	国・県支出金	2,923		3,661	3,661	3,661	3,661
	地方債						
	その他( )	25					
	一般財源	0	1,666	0	2,165	2,165	2,165
人工数	職員	1.95人		1.65人	1.65人	1.65人	1.65人
	臨時職員等	2.58人		5.25人	5.25人	5.25人	5.25人
②概算人件費	0千円	19,074千円	0千円	20,760千円	20,760千円	20,760千円	20,760千円
①+②総事業費	0千円	23,688千円	0千円	26,586千円	26,586千円	26,586千円	26,586千円

## 4. 担当室による事務事業の点検

考察(H.29年度の取組評価、課題、施策への貢献、市民との協働など)
多くのボランティアの協力を得て様々な事業を実施することにより、相談者が増加し、地域の広場への協力要請も増えている。また、父親の子育てへの参画も積極的になってきているように見受けられる。その他、来館者が自ら活動を企画する側に参画する事例も増えている。安心して産み育てることのできる子育て環境を整え、子育て・子ども支援の充実に取り組んでいる。地域の広場事業への積極的な参画と各地域の主任児童委員・民生児童委員・まちの保健室関係者との連携を図りながら取り組む。また、ボランティア育成のための研修会等を保育所幼稚園職員と連携をとり取り組む。

## 5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合(予定含む)、休止(予定含む)、廃止(予定含む)、事業完了(予定含む)	継続(現行)
---	--------

今後の対応方針(課題解決への取組内容、具体的な見直し内容、継続の理由等)
子育て講座・講演会・相談事業を実施しているが、保護者により興味をもってもらえるようニーズに沿った内容を検討していく。また、ボランティアの協力が不可欠であるため、育成を充実させていく。その他、関係機関との連携を強化し、それぞれの役割の整合性を図ることが必要である。多くのボランティアの協力を得ることで相談者が増えつつある状況を踏まえ、様々な事業を展開していく。また、子育ての不安などを軽減し、少子化への歯止めがかかるよう、支援の中核的な役割を果たす事業を継続していく必要がある。

6. 事務事業の取組に関する市の計画
ばりっすくすく計画